

世界の子ども 12 人に 1 人が学校に通えず、  
大人の 6 人に 1 人は読み書きができません。  
この現状を変えようと 100 か国以上で  
「すべての人のための教育」を訴えました。

4月26日(日)～5月31日(日) 開催

# 世界一大きな授業 2015

すべての子どもに教育を。一本のペンが世界を変える。

2015年までに誰もが小学校を卒業できるようにする。今年が約束の期限です！



日本ではすべての都道府県から 780 校・グループ、7万 2,463 人が参加。

パレスチナ



●世界中で、教育の現状を学ぶ「授業」

学校に行けない子どもが世界に 5,700 万人、読み書きができない大人は 7 億 7,400 万人います。こうした状況を知り、教育の大切さについて学ぶ「世界一大きな授業」をはじめ、子どもたち、先生、政治家などが参加する様々なキャンペーンが、2015 年も世界中で行われました。

日本では小学校から中学・高校・大学、自主グループなど、全都道府県の 780 校・グループ、7万 2,463 人が「授業」に参加しました。

奈良県五条市立北宇智小学校



コップに入っているのが病気を治す薬なのか、ネズミを退治する薬か、文字が読めなくてわからない。そういう場面を想定したり、世界の軍事費と教育費をリボンで比較するなど、参加型の授業を通して、自分に引き寄せて学ぶことができました。

関東学院大学



●「かわいそう」から、共感、公正へ

「授業」後の感想は、「非識字体験をしてみて、文字の読み書きのできないことの大変さがわかった」「教育を受けられない子どもの未来は限られてしまうということです。それはあまりにも不平等です」などが出されました。「授業」を受ける前に抱いていた「かわいそう」という印象から、共感や公正を求める思いへと、変化がみられる例は少なくありませんでした。

●世界中で、教育の普及を訴える「授業」

教育の現状を知るだけでなく、だれもが教育を受けられるために「自分は何ができるか」を見つめることも「授業」の特徴です。

日本の中学校では、「自分と同じくらいの子供たちが世界の子どものために一生懸命努力している… 私は、驚きと尊敬が胸がいっぱいになりました」と、ノーベル平和賞を受賞したマララさんについて、「スピーチを読んで、自分と近い年なのに、政府などに訴えているのを知って、自分もできるかな、と思った」など、政策提言に意欲的な感想が寄せられました。

子どもから政府へのメッセージは、世界中で発信されました。

インド



●海外では首相と子どもたちがアピール



デンマークでは、議事堂前の広場に子どもたちとシュミット首相が、「学校に行けない世界の友だちが、学校に行けるように」とメッセージを発信。同様のイベントが様々な国で行われました。

●日本では子どもから国会議員に「宿題」



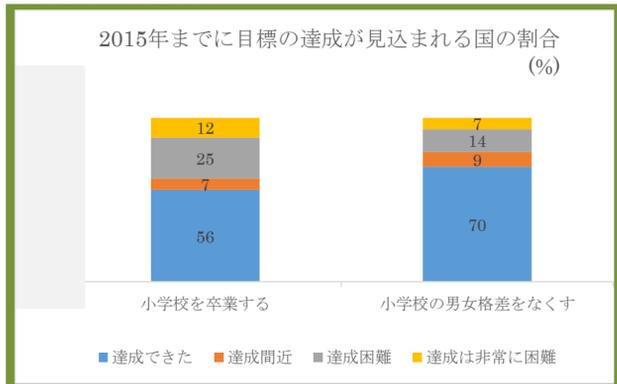
日本では、5月13日、「国会議員のための世界一大きな授業」を中高生が先生となって行い、19人の国会議員が参加しました。途上国の子どもたちが学校に行けるための援助に力を入れるよう、「これは私たちがからの宿題ですよ」と訴えると、議員からは、「しっかりと、宿題に取り組みます」の返事が次々と返されました。

ニカラグア



●2015 年はゴールの年

世界の国々が、「すべての人に教育を」と 2000 年に行動計画に取り組み、そのゴールの年は 2015 年とされました。掲げられた目標は達成できたのでしょうか。



2015 年時点で、すべての子どもが小学校を卒業することができない国は 4 割、男女が等しく学べない国は 2 割以上にのぼることが見込まれています。まだまだ、達成には至りません。

●日本政府にメッセージを届けました！

8月12日、教育協力 NGO ネットワークのメンバーと子どもたちは外務省で、水越 英明国際協力局地球規模課題担当参事官と面会しました。「世界一大きな授業」に参加した 7 万 2,463 人を代表して、「世界の子どもたちが教育を受けられるように、日本からの援助をしっかりとしてください」と申し入れました。全国から寄せられた 3,860 通の「首相・外務大臣への手紙」を手渡しました。

外務省



●2016 年から

「世界一大きな授業」は 2016 年も実施する計画です。現在、企画中です。ぜひ、ご参加ください。すべての子どもたちが質の良い教育を受けられるために。

主催：教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) \*途上国で教育協力を行う NGO 23 団体のネットワーク

共催：プラン・ジャパン

助成：庭野平和財団

協賛：リコー社会貢献クラブ・FreeWill、KUMON English Immersion Camp

協力：地球対話ラボ 賛同：アフリカ地域開発市民の会

後援：文部科学省、外務省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、

日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ・アジア文化センター、動く→動かす、国際協力機構、国際連合広報センター、

ガールスカウト日本連盟、児童労働ネットワーク、なんとかしなきゃ！プロジェクト、ボーイスカウト日本連盟

■事務局 〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22-11F 公益財団法人プラン・ジャパン内

電話：03-5481-0030 FAX：020-4662-2085 Eメール：advocacy@plan-japan.org

世界一大きな授業 www.jnne.org/gce/



企画・実施団体

